



熊本県PTA連合会

熊本県 PTA 新聞

熊本県PTA連合会
www.kumamoto-pta.com
〒860-0842 熊本市中心区
南千反畑町3-7
熊本県総合福祉センター4F
TEL(096)354-5919
FAX(096)354-5913
✉ info@kumamoto-pta.com

●発行人 村崎 一英
●単位PTA数 359
●発行部数 73,500部

印刷 株式会社キャップ
TEL(096)362-3333
制作 ワタナベデザイン
TEL(0969)22-1089

監修 熊本県人権教育研究協議会

第45回 熊本県 PTA 研究大会 球磨大会



全体会 挨拶をする村崎会長



感謝状を手にする下田様、竹本様、前田様



大会会長
熊本県PTA連合会会長 村崎 一英

キーワードは親としての

責任の自覚と覚悟

爽やかな秋晴れの中、豊かな自然と地域の方々の思いやりに溢れたこの球磨郡で、第45回熊本県PTA研究大会球磨大会を、千五百名以上の皆様のご参加をいただき盛大に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

大会当日は各分科会、全体会の会場とも、運営陣の活気と熱意を感じると同時に、講演者の話に聞き入っている参加者の方々の真剣な表情を見ながら、熊本県におけるPTA活動に携わる方々の子育てに対する意識の高さを感じました。

近年、少子高齢化や情報化、グローバル化など、社会が大きく変化したことによる人間関係や地域における地縁的なつながりの希薄化等が原因となり、地域社会や家庭による「教育力」の低下がさげ

ばれ、子どもたちの問題行動やいじめ、不登校などの背景として指摘されています。

しかしながら、それぞれの家庭における「教育力」は私たち保護者の自覚と覚悟によって高めることができます。「家庭教育は全ての教育の出発点」と改め、認識し、子どもたちを守り、心豊かに育むことが親としての責任であることを自覚する。そして、その為に必要な知識やスキルを学び習得することに強い覚悟を持つて努める、この度の球磨大会は、その学びや気持ち、つながりの場所として開催いたしました。ご参加の皆様のご意識向上と、つながりの広がりを祈念いたしますと共に、今回得られたものをより多くの会員の皆様にお伝えいただき共有しながら、県内全ての子どもたちの笑顔溢れる未来を、共に築いて参りましょう。

結びに、本大会の開催にあたり多大なご尽力をいただきました球磨郡PTA連絡協議会実行委員の皆様、関係者の皆様に敬意を表しますと共に、心より感謝を申し上げます。



第1分科会のような様子 相良村総合体育館

この大会スローガンのもと、第45回熊本県PTA研究大会球磨大会に保護者・先生方をお迎えすることができましたことに感謝申し上げます。

球磨郡では初、平成最後の県大会をということで、球磨郡の思いを一つにし、作り上げてまいりました。

今大会は、3つの会場において特別支援教育、食育、家庭教育、情報モラルの4つのテーマで分科会を開催し、アトラクションでは、球磨人吉のダンスチーム「SARK URA組」に迫力あるダンスを披露していただきました。終了後

の末續慎吾選手による、「好きを貫いて生きる楽しさ」と題した記念講演では、常に勝つことを期待される苦しさを経験し、好きを貫くという姿勢に辿り着いたという話に感動をいただきました。

この大会を通して、「県PTA球磨大会をすばらしい大会にしたい、参加してよかったと思えるような大会にしたい。」という、実行委員みんなが同じ方向に向かって大会を作り上げるといふ、思いの大切さを学ばせていただきました。

子どもたちの笑顔が地域いっぱい広がるように、そして学校・家庭・地域がしっかりとつながりを持ち、子どもたちの健全な成長をささげられるように、明るい未来に向かって私たちが一緒に成長していきましょう。

最後に、ご参加いただきました全ての皆様に厚く感謝申し上げます。今回の大会が皆様のPTA活動の更なる充実・活性化、そして学びや気づきの場になり、それぞれの学校・家庭・地域で生かされることを期待いたします。

研究大会を終えて

共に進み共に輝こう!

学校・家庭・地域に咲き誇る笑顔の花



球磨大会実行委員長
球磨郡PTA
連絡協議会会長
石塚 賢宏

2・3面	県PTA球磨大会報告
4・5面	HP全国研究大会 新潟大会報告 HP九州ブロック 研究大会 鹿児島大会報告 荒玉郡市P連と 高P連との 意見交換会
6面	親子ふれあい デー活動報告 ふれあい読書 研究会報告 単P紹介
7面	県教育委員会 の施策 家庭部会研修会 熊本県PTA共済 団体賠償責任 保険制度 委員会報告 震災義援文庫 設置について 編集後記
8面	



全体会の最後 PRをおこなった玉名郡エリアPTAのみなさん

次期開催案内

県の北西部、水と緑の豊かな玉名郡で第46回熊本県PTA研究大会を開催します。

2019年大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三先生ゆかりの玉名地域で「翔けだそう 子どもたちの未来へ」をスローガンに子どもたちの健全育成につながる大会を目指し、準備を進めています。皆様のご参加お待ちしております。

玉名郡大会実行委員長
玉名郡PTA連絡協議会
会長
西田 恵介



第46回熊本県PTA研究大会
玉名郡大会
2019年11月16日(土)開催

研究大会球磨大会 **報告**

共に輝こう!

笑顔誇る笑顔の花~



全体会

記念講演

相良村総合体育館



熊本県PTA連合会 副会長
田浦 かおり

『好きを貫いて 生きる楽しさ』

■担当 熊本県PTA連合会
■講師 EAGLERUN 末續慎吾様

全体会は午後から相良村総合体育館にて行われ、ご多用なお集まりいただきましてご来賓の皆様よりご挨拶を頂戴し、未来を担う子どもたちの健やかな成長のために、PTAが果たすべき役割へ大きな期待が寄せられていることを感じました。

県の社会教育課より4名の方の功労者表彰が行われた後、「好きを貫いて生きる楽しさ」と題し、熊本県出身で陸上競技200メートル日本記録保持者の末續慎吾選手の記念講演が始まりました。

走る度に記録を更新し、走ることが楽しくて仕方なかった学生時代。走ることで自分が認められていると感じていましたが、世界選手権で銅メダルを獲得し、その名を広く知られるようになってからは、その都度記録を期待され、記録が出なかった時の観客の失望を一身に背負うことになりました。

見る人の期待に応えたいというプレッシャーから自律神経に異常をきたし、生きていくことさえも辛かった孤独な時間を終わらせたのは、偶

然テレビで目にした陸上の大会で、自然と湧き出た選手への熱い声援により、呼び覚まされた「走る楽しさ」でした。

「当時は負けたら引退だと思っていた。負けることの意味がわからなかった。今は、陸上競技で好きを貫いたらどうなるの？負けることの先に、本当のスポーツの価値があるはず、との思いで走り続けている。」と語ってくださいました。

講演を聞いて、勝利至上主義に陥りがちなスポーツという分野で、部活動に所属する我が子には「負けること」とはこれまでの自分を振り返り、足りなかった部分を明らかにし、鍛錬を重ねるきっかけにすることだという価値観をもって欲しいと感じました。

末續選手までとはいかなくても、これだけは人には負けないと感じられるものを、すべての子どもたちが持っているように、私たち大人が手助けできれば、と思い、その根底にあるのは「好きであること」だと、強く感じさせられました。

第1分科会第1部 テーマ 特別支援教育

相良村総合体育館



■運営責任者 教養委員長
西田 恵介

『大切にしたいこと』

■担当 熊本県PTA連合会教養委員会
■講師 人吉球磨圏地域療育センター
椎葉浩太郎様

第1分科会第1部では特別支援教育について、人吉球磨圏地域療育センター療育相談員の椎葉浩太郎さんをお招きして、開催しました。

日頃、療育という言葉は聞いたことはあるが何か難しいことと思っている方も少なくはないと思います。講演では、「大切にしたいこと」と題し、療育の定義や正しい知識、これまでの療育相談委員としての体験談をお話いただきました。その経験の中で、大切にしたいこととして「発達障害や特別支援教育などについて、正しい知識を得る」「子どものことを知る」「子どものことを話せる相手を持つ」「ことを伝えられました。これらはすべてPTA活動そのものであるとの言葉に、私もまさにその通りだと共感しました。参加されたみなさんも、改めて療育についての正しい知識と理解を得られたと同時に、PTA活動の大切さを感じられたことと思います。

最後にになりましたが、参加いただきましたPTA会員の方、先生や地元スタッフの皆様のご協力により、実りある研修ができましたことに深く感謝申し上げます。

第1分科会第2部

テーマ 食育

相良村総合体育館



■運営責任者 総務委員長
岡崎 秋人

『家庭を ありがとう』

『ありがとう』

■担当 熊本県PTA連合会総務委員会
■講師 佐世保市立広田小学校教諭
福田 泰三様

第1分科会、第2部は「食育」をテーマに講演を行っていただきました。

講師である福田泰三先生は、長崎県佐世保市で現役の教師として毎日教壇に立ち、多様な日々を送っておられる方、全国各地で食育の講演を行っておられます。

「食育といえば、子どもが栄養について学ぶ授業が多いようだが、いくら学校で教えても実際に食事を作るのは親。ならば、自分で作ることを、学んだことを実践できる方が重要。」と考えて先生が取り組まれたのが、子どもが朝台所に立ってみそ汁を作る「みそ汁の日」でした。

実際に子どもたちが台所に立ち、料理をしている姿を映像で見ながらの講演に、会場のあちこちでは、感動で涙を流す方もおられました。

先生の体験に基づいた講演により心を動かされた参加者からは「単Pでも福田先生を講師にお招きしたい」という要望をたくさんいただき、反響の大きさを嬉しく感じております。

最後になりましたが、この大会にご参加いただいた会員の皆様方、準備から運営までご協力いただきました球磨郡PTAの皆様方に対し、感謝申し上げます。



阿蘇市立
山田小学校PTA会長
佐伯 知彦

仕事だけに限った事ではないが、何かにとりかかった時、高確率で子どもたちが話しかけてくる。「パパ見て〜」「パパこれして〜」といった具合に。そんな時、しばしば顔を見ることもせず「後でね」や「ママに言っておく」として対応してしまっている。そしてそれは、心の奥底に消化しきれずに、子どもたちに対する負債となり積み重なっている。気付かないフリを自分に対してしているが、いつも悪いなど思っている。

どうにもならない感じに感じていましたが、今回のお話を聞いて、当たり前の日常を大切に過ごしていれば良かったんだと、肩の力が抜ける感じがしました。日常生活の中で親子で何かを一緒にするという、自然な関わり。それだけで後ろめたさの積み重ねではなく、親子の時間の積み重ねに代わるのだと気付きました。長いようで短い親子の時間を、ありがた〜で満たし、子どもたちの活力の源になりたいと思います。

第45回熊本県PTA

大会スローガン

共に進み・

～学校・家庭・地域は



第2分科会 テーマ 家庭教育

深田高山総合体育館



『ごどもたちのいのち』に ありがとうございます』

担当 熊本県PTA連合会家庭教育委員会
講師 NPOいのちをつなぐ会事務局長
高濱 伸一先生

報告

運営責任者
家庭教育委員長
眞田 洋子

参加者の声



球磨郡多良木町立黒肥地小学校PTA会長
魚住 雅彦

第2分科会では、近年、未成年者の自殺が多い中、子どもを守るべき私たち保護者がもう一度命について考えていきたいと思、「子どもたちのいのち」にありがとうをテーマに、NPO法人いのちをつなぐ会の高濱伸一先生をお迎えしました。

高濱先生はご自分の息子さんを19歳の時事故で亡くされました。一心に愛情を注いで育てた息子の突然の死。その死を受け入れらるまでの葛藤の日々に、もしこれが自分の子どもだったらと想像し、私も熱いものが込み上げてきました。

愛する人の死を身をもって実感された先生は「死んでいい人はいない。誰かを思い、自分の命も大事にして生きる。感謝する心が大切だ。」との信念をもち、ご自身が癌と闘っておられる現在も、日々たくさんの方々にいろんな場所で講演をされています。

今回先生の話を聞かれた皆さんにとって、子どもたちに命を大事にすることを、きちんと教えてあげられるきっかけとなれば嬉しく思います。

最後に、この大会に参加してくださった皆さんと、時間をかけて一緒に取り組んできた、球磨郡の役員の方々に感謝申し上げます。

第3分科会 テーマ 情報モラル

錦勤労者体育センター



『スマホの向こう側』 子どもを置き去りにしない情報モラル教育の進め方』

担当 熊本県PTA連合会広報委員会
基調講演 熊本県教育委員会総合支援課学校サポート班指導主事 田中慎一郎様
パネリスト 球磨村立球磨中学校 遠原大輝様
公立球磨中央高校 平瀬心都様
あさひ町立阿原小学校教頭 溝口博史様
保護者・水山村 五家一久様
パネリスト

報告

運営責任者
広報委員長代理
清原さおり

参加者の声



大津町立美咲野小学校PTA副会長
野山ひろみ

熊本市教育委員会総合支援課学校サポート班指導主事の田中慎一郎様を講師に、球磨郡の児童生徒、保護者、教職員の5名の皆様がパネリストにお迎えして、活発な意見交換を行っていただきました。

講師から、最新のSNSやアプリ、通信ゲームの紹介を交え、実際に起きたトラブル事例を分かりやすく解説されると、参加者から「初めて聞く名前のアプリだ」「そのゲームに年齢制限があるとは知らなかった」などの驚きの声が見られました。演題の中の「子どもを置き去りにしない」という言葉の通り、大人だけでなく子どもと直接対話し、コミュニケーションを取ること、最新の情報を定期的に勉強することが大事であることが分かりました。

最後になりましたが、参加いただきました皆様、地元スタッフの皆様のご協力により、実りある研修ができましたことに深く感謝申し上げます。

熊本県PTA研究大会球磨大会を終えて 全ての皆様に 心より感謝



球磨大会副実行委員長
球磨郡PTA連絡協議会副会長
荒川 智治

第45回熊本県PTA研究大会球磨大会を無事終える事が出来ました。球磨大会に関わってくださった全ての皆様、心より感謝申し上げます。球磨大会開催にあたって一番の問題は会場のことでした。たくさんの方に参加していただきましたと思う反面、本場にこの会場に入るのだから、駐車場は足りるのだろうか、不安でたまりませんでした。実行委員会でも何回も協議し、一つひとつの問題点を解決して大会本番を迎える事ができました。開場時間になり、会員の皆様の押し寄せる

PTAの役割を再認識



球磨大会副実行委員長
球磨郡PTA連絡協議会副会長
川越 泰也

無事この大会を終え、運営に携わっていただいた役員の方々に感謝の思いで二杯です。本場にありがとうございました。

この球磨大会は、私にとつて幾重にも思い深い大会となりました。8月後半、大会の準備としても大切な時期に突然父を亡くしました。少年期、父子家庭での貧乏生活が私のPTAの原点です。

今回私は、父の死を経験し、球磨大会を迎えられた事でPTAの役割を再認識することができました。それは、平和な世の中作りの二助を担うということ。平和な世の中はどこから始まるのか。それは「地域」です。この地域を発展させたい。この地域から人材を出したい。この切実な思いのこもった行動から、最も確かな波が広がるのだと、この大会で各単Pの底力を目の当たりにし感じました。今後、私が出る全てのことに挑戦し、大切な子どもたちと触れ合いながら、PTA活動を通し、私自身が地域のお役に立てるよう努力して参ります。

大会スローガン

教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神!
 ~新潟に集い、語ろう 未来のひとづくり~
 メイン会場 アオーレ長岡
 開催日 ■平成30年8月24日(金)~25日(土)



第66回日本PTA全国研究大会

Report

新潟大会報告

8つの分科会と2つの特別分科会が開催されました。分科会に参加したみなさんから報告です。

全体会 記念講演

夢を追いかけ つかんだ俳優人生



副会長
児玉 裕美

全体会ではアオーレ長岡で開催され、「夢を追いかけつかんだ俳優人生」を演題に、俳優の高橋克実さんが講演されました。生家が新潟県であるなど、ご自分の生い立ちから話始められ、人を笑わせるのが好きだった子ども時代や、現在の俳優人生にたどり着くまでを話してくださいました。

「夢を抱いて上京し、オーディションを受けるがなかなか受からない。それでもあきらめられなくて、受からなかった人の中から6〜7人くらいで劇団をつくってお芝居を始めた。人生は、何が起るかかわからないから面白い。好きなことをして、苦勞は苦勞とは思わない。まだまだ夢を追いかけたい。」と話されました。

「寿命がどんなのびている今、幾つからでも何でも始められる。身近にある題材からでもいい、目標を設定し、楽しみながら達成していくこと。傷つく事や、失敗を恐れている成功の喜びはない、そのためには夢が必要なのかなと思う。」と結ばれ、夢を持つことで人生が豊かになることを教えてくださいました。

楽しく笑いの絶えない、とても勉強になる講演会でした。

第1分科会 組織運営

PTAからはじまる チーム活動



副会長
田浦 かおり

第1分科会は、上越文化会館において、眞鍋義全日本女子バレーボール元代表監督による「逆転発想の勝利学」チームのスイッチを入れる」と題した基調講演が

行われました。

2012年のロンドンオリンピックで28年ぶりに日本に悲願の銅メダルをもたらした要因として、監督が選手の気持ちを盛り上げるモチベーターに徹したこと、背の高さが圧倒的に有利に働いたというバレーボールの常識を、ボールを落とさなければ得点にならないという発想に切り換え、レシーブ力を強化したことをあげられました。

その後行われた市振小学校の実践発表には、廃校に向けて様々な趣向を凝らした行事を実施し、親と子が共に学び、楽しむ活動を行ったことへの自負と、子どもたちにそれを受け継いでほしいという願いが込められていました。

最後のパネルディスカッションでは、「チームPTA」を活性化するための家庭、学校、地域の連携と題して、「子どもたちのために」という視点で三者が協力して変化を起こす必要性が語られました。

環境の変化に対応しつつ、全会員に利益を還元する活動を行うため、「子どもたちのために」という熱い気持ちと、非常識を常識にする程の柔軟な発想がPTAにも求められていると感じました。

第4分科会 地域連携・広報活動

地域と学校がともに育む 将来の担い手



教養副委員長
藤井 千秋

岐阜県の雪深い白川村。合掌造りが有名な小さな山村の社会教育主事である、新谷さゆりさんの講演を聞かせていただきました。

新谷さんは「コミュニティ・スクールの立ち上げに尽力され、現在では『担い手』の育成に携わっていらっしゃいます。『児童数の減少が見られるなか、将来の担い手をどの様に育てていくのか』という課題に挑戦されました。『地域とともにある学校』コミュニティ・

スクールとして①これからの時代を生き抜く力②地域から信頼される学校③学校(場所)を核とした地域づくりを柱とし、活動員は肩書きからの選出ではなく人柄や地域愛などを優先し、その後、肩書きをつける。そうすることで地域の方が伝統の躍りを伝授して下さったり、学校行事に自らも楽しみながら参加して下さるようになったとの発表がありました。

その後のパネルディスカッションでは、横浜新興住宅地の転入世帯が多い地域の発表がありました。古くからの祭りや自治交流もない地区に、新たに学校や地域とのコミュニティを創りだされた事例発表で、どちらも非常に興味深い内容でした。

第6分科会 環境教育

自然環境を生かす 教育への参画



副会長
園田 恭子

第6分科会の研究課題は「自然環境を生かす教育への参画」。台風の接近で天候が危ぶまれる中、無事佐渡島へ渡り、参加してきました。

過疎化、高齢化が進む佐渡市では「郷土愛を軸にしたキャリア教育」「家庭教育・地域教育充実のための取組の推進」などを基本方針に掲げ、学校・地域・PTAが協力し合い、佐渡の豊かな自然と伝統文化を生かした取組をされています。

登山用品メーカー「モンベル」会長の辰野勇氏による基調講演では、「私たちが生きていく上で必要なものは、『集中力』『持続力』『判断力』、そして『決断力』。自然の中にはこれらを学ぶ道具がたくさんある。実体験の中から身に付けるものであり、夢中になれるものは何でも良い。一つのことの中に夢中になることでそこから広がっていく。子どもたちにたくさんの経験をさせ、冒険させてあげることが大切である。」とご自身の経験を通してお話いただきました。

続いて新潟大学准教授の豊田光世氏が

「コーディネーターをつとめるパネルディスカッションでは、パネリストとして新潟でPTA活動や農業、あそびを通してコミュニケーション能力を伸ばす活動をされている医師など4名で討議がなされました。『子どもに完璧を求めず、全てを親の管理下に置かず、任せられるものがあれば放つてみる』などの提言が行われ、

「家の中をはじめ、地域の中、自然の中で体験を数多く与えてあげることが大切である!大人が子どもたちを外に連れ出し、一緒に育てよう!私たち大人は冒険者になれているだろうか。」という問いかけで終了しました。

豊かな自然環境とともに学校・地域・PTAがしっかりと手を結んで子どもたちを育てることの大切さをあらためて実感しました。

特別第2分科会 文部科学省協力

地域学校協働活動推進のためにPTAが果たす役割



監事
西村 勝徳

この分科会ではコミュニケーションをとりやすい雰囲気を作り、参加者全員が自由に積極的な意見交流を行えるよう、ワールドカフェ形式で行われました。

1つ目は、「今後の地域における学校との協働体制の在り方について、地域と学校を連携・協働へと発展させていくためにPTAが果たす役割は何か?」というテーマで話し合われました。

そこから導き出された提言は、地域コミュニティの活性化のためには、連携の橋渡し役をPTAが果たすべきであるというものでした。

2つ目のテーマは、「地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組み作りに向けたPTAの関わり方」でした。従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる幅広い層の地域住民、団体

等が参画できるPTA活動の展開が重要であるという提言が行われました。

この緩やかなネットワークの中で子育てに必要な知識の共通理解と、次代を担う子どもに対してどのような資質を育むのかという目標を共有することで、子どもたちを包むより大きな愛情が地域で形成され、子どもたちの健やかな成長の支えとなります。

地域社会と家庭、学校が協働しながら研修・啓発活動を促進し続けることで、子どもたちの輝ける未来のための環境整備につながると確信することができました。

荒玉郡市P連と高P連との意見交換会

7月14日(土)
ホテルしらさぎ



会計理事
宮崎 征二

この意見交換会は、県北エリアにある荒尾市P連、玉名市P連、玉名郡P連の情報・意見交換の場として、年に2回各エリアで開催しています。

平成28年度より荒玉郡市の7つの高P連にもお声掛けをして、年2回のうちの1回を荒玉郡市P連と荒玉郡市高P連との意見交換会としました。

内容としては年間の事業計画及び活動の報告、各エリアの近況や特色の紹介があり、各学校単位での情報や、現在抱えている問題または心配事などを話し合える貴重な会となりました。その後の懇親会では毎回恒例の出し物等があり、笑いが絶えない歓談の場となりました。

今後、荒玉郡市の小・中・高P連の協力、連携を確認できる有意義な会にしていきたいと思います。

大会スローガン

かこんま

明治維新150年 語いもんそ鹿児島で

～みんなで成長していくPTA活動～

メイン会場 鹿児島アリーナ

開催日 ■平成30年10月27日(土)～28日(日)



第63回日本PTA九州ブロック研究大会

Report

鹿児島大会報告

7つの分科会と1つの特別分科会が開催されました。第7分科会での西合志南中学校の提言発表と、分科会に参加したみなさんから報告です。

西合志南中学校の提言発表の報告

第7分科会

ネットモラル・メディアリテラシー

【守る・活かす】

提言 SNSトラブルの解決に向けた学校とPTAの連携した取組

合志市立西合志南中学校 前PTA会長 太田 徹

本校は、学校教育目標「よく律し、よく学び、よく助け合う生徒の育成」を掲げ、全校生徒901名の夢実現に向けて、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を展開しています。

平成26年に県南で発生した女子高校生が命を奪われる痛ましい出来事をきっかけに、同年6月に合志市PTA連絡協議会の協議を経て、「午後10時～午前6時までスマホ・ケイタイを使わせない」等の共通ルール(申し合わせ事項)を確認し、実践してきました。



平成27年4月からは「西合志南中みんなの夢実現プロジェクト」を提唱しています。これは、現在中学生である生徒が、いずれ大人となった時、一人の家庭人、地域人、社会人として活躍するために必要な資質を学校・家庭・地域が一体となって育成することを目的としたプロジェクトです。中でも「Homeプロジェクト」にある「ノーマディアで会話をする」は、申し合わせ事項とタイアップすることで家庭の責任を明確化すると同時にバックアップしてきました。これらの取組により、スマホ・ケイタイの所持率やSNSトラブルに対する保護者の関心も高まり、子どもにも所持させることが本来に必要かどうかを考える家庭の割合が増えてきたようです。

第2分科会

研修・啓発活動



教養委員理事 山口 里美

第2分科会では、熊本市立託麻原小学校より「託麻原小学校PTA防災キャンプ」について、北九州市立菊陵中学校より「菊陵スマホ塾」についての報告がありました。

託麻原小学校では、2016年4月に発生した熊本地震により甚大な被害を受け、小学校も避難所となり、多くの児童が避難所生活を余儀なくされました。その経験を忘れず、災害時に大人の指示を待たずに自ら行動できる子どもを育てようとPTA主催の防災キャンプを企画・実践されました。防災の知識や情報を学習し、自ら身の安全を守り、集団生活を通して自助・共助の大切さを学び、将来の地域防災を担う人材育成を目的として行われています。小学校の施設を利用し、1泊2日の日程で防災講座や心肺蘇生法・AEDの取り扱い、着衣水泳などの体験学習、非常食による食事、体育館での就寝など、実体験を通して防災に対する多くの学びと体得を感じる研修となったという報告でした。食事や防災グッズは行政からの支援で賄われ、予算は0円という事にも驚きました。

菊陵スマホ塾では、中学生のスマホ・携帯電話の実態調査の実施報告でした。

その後、研修への積極的な参加を促す手立て、研修内容を充実させる手立てというテーマに沿って、会場とパネリストとの意見交換が活発になされました。親子一緒に参加できる楽しいプログラムにする工夫をしたり、地域や企業団体と協力して行う事で内容を充実させ、規模を大きくしているところもありました。

他校の色々な工夫を凝らした取り組みを伺うことができ、とても勉強になりました。

第3分科会

コミュニティ形成・連携強化・広報活動



広報副委員長 宮本 幸生

第3分科会は、鹿児島市中央公民館という昭和2年に建設された趣ある建物で開催され、「地域コミュニティと結びつきを深めるPTA活動」を討議題とし、二つの活動組織から事例報告がありました。

最初に、長崎県松浦市立志佐小学校の報告がありました。平成3年にPTA主催で開催したふれあいコンサートが、回を重ねるに連れ、地域や子ども達も参加するようになり、今では学校も共催として企画し、PTAと地域、子どもたちが結びつきを深める貴重な機会となっているそうです。

続いて、今回の九州ブロック研究大会の開催県である福岡県のキャバンのご案内を挟んで、福岡県八女市立上陽北小学校の報告がありました。既存の社会教育団体とPTAが共催で開催した料理教室が、PTAと地域コミュニティとの結びつきを深めるきっかけとなったそうです。

地域においては、自治会や町内会、NPO法人、企業など、社会を構成する様々な団体が共に協力し、支え合う「共生・協働型」の地域コミュニティへと再編が進められています。

この様な中で、PTAも地域社会の一員としての役割を自覚し、地域との連携・協働を一層深めることで、地域からの協力や支援も得やすくなり、その結果、地域全体で「家庭教育支援」を行っていくとする気運が高まり、PTA会員との結びつきの深まりや家庭の孤立化防止にもつながると感じました。

第5分科会

教育問題～家庭教育



教養委員理事 松村 太

鹿児島大会第5分科会は教育問題(家庭教育)「子どもと共に成長し、絆を深める家庭教育」という議題について、北九州市の田野浦小学校と武雄市の北方中学校から実践発表がありました。

「地域は家族」という地域に根付いた協力関係の中「働く保護者の応援、夏休みの居場所作り」を目的に、子どもたちの自主運営による宿泊体験や地域団体とサッカー教室、グループワークなどのコラボ企画を実施されています。子どもも保護者も学校を卒業した後、参加者から運営者へステップアップし、PTAから地域の人となり、地域とのつながりをより強固にしていこうとされています。中学校でも地域小学校と交流を深められ、年間行事では子どもと保護者が一対になるような運営をされていて一緒に汗を流しておられます。また改めて「子どもとの関わり」についてアンケートを実施され「ふれあいの時間」の「叱り方」「褒め方」について考察を深められました。どちらの学校でも子どもたちの体験学習や絆を深める活動を学校内に留めることなく、PTA活動を通じて学校と地域との連携を深める取組にされています。

数多くの歴史的災害を経験した平成の最後の研究大会で、地域の中の学校、PTAという存在の重要性を考えると、地域と普段からの連携を指されたこの実践発表は、これからのPTA活動と学校の取組にとっても大きな目的を示していただけたのではと感じました。

平成30年度 親子ふれあい「デー」活動

地域と共に伸びる深田つ子

Report あびぎり町立深田小学校



学校の概要

- 球磨エリア
- PTA会長 東 克明
- 校長 大倉 幸代
- 児童数 1783人
- 教職員数 83人

本校は本年度、学校創立143年を迎える児童数83人、PTA戸数64戸の小規模校です。本年度のPTA活動方針は、「命」を大切に『思いやり』の気持ちをもつ深田つ子を育てよう』で、学校・地域と連携して様々な活動を行っています。その活動をいくつかご紹介いたします。

【各学年の活動】

学年ごとに親子の絆を深め、相互の親睦を図るために親子キャンプやラフティング体験など様々な活動を行っています。

【親子ふれあい読書デー】
毎月一回、熊本地震関連教材「つなぐ」の中から親子で読んでもらう教材



こんなにとれたよ!



ラフティング最高!!

学年ごとに親子の絆を深め、相互の親睦を図るために親子キャンプやラフティング体験など様々な活動を行っています。

【各学年の活動】

学年ごとに親子の絆を深め、相互の親睦を図るために親子キャンプやラフティング体験など様々な活動を行っています。

し出しを行っています。

その他にも、老人会とPTA生活安全部の協力で行う茶摘み体験、JA青壮年部の協力で行う芋や稲の栽培、地区委員会が行う空き瓶回収、家庭教育部と地域が連携した「食と農のフオーラム」といった活動もあります。

本PTAは、「教育の原点は、家庭にある」ことを再認識し、親子が同じ活動を行い、共に考え、共に汗を流し、共に喜びを分かち合うことがとても重要だと考えます。今後は親子の触れ合う時間を大切に、子どもたちの健全育成につながるよう努めていきます。

熊本地震の時の読み聞かせ活動

Report 益城町立広安小学校



学校の概要

- 上益城エリア
- PTA会長 藏田 誠二
- 校長 金垣 裕至
- 児童数 701人
- 教職員数 54人

本校は益城町の西北部に位置し、熊本市のベッドタウンとして発展しています。現在本校のお話し会「どり〜む」は、隔週月曜日の朝自習の時間に各教室にて保護者を中心とした読み聞かせと、2学期に5年生を対象とした「銀河鉄道の夜」のストライド朗読劇を行っています。今回は、熊本地震の時に取り組んだ活動を報告致します。

平成28年4月14日、益城を震度7の地震が襲い、16日未明の本震では、更に前震を上回る被害を受けました。約1カ月の休校期間を経て学校が再開したときには、本日に日常のありがたさが身に染み込みました。

学校が再開して、何かできることはないかと考え、お話し会をさせてもらえるようお願いしたところ、毎週月曜日昼休みを利用して図書室にておこなうことになりました。内容はエプロンシアターやパネルシアター、絵本の読み聞かせなど、その日に活動できるメンバーが集まって演目を決めました。参加する保護者は皆被災者なので、無理をしない、というのが大前提での活動でした。お話し会をするうちに、子どもたちと話をしたり、出し物などをしたりすることで参加メンバーの心も癒され、現実と向き合う活力となっていました。子どもたちも学年を問わず見に来てくれ、大きな声で笑ったり、歌ったり、お喋りしたり楽しんでくれたと思っております。

2学期からは学校生活も地震前の状態



絵本の読み聞かせ活動

絵本の読み聞かせ活動

す。今後も続けていきたいと思っております。

子どもとともに 地元の山に!! ~鍛錬遠足~

菊池市立隈府小学校

県北 菊池市エリア

教職員数 44人

生徒数 590人

菊池市立隈府小学校は、明治7年に開校した菊池市の中心地「隈府」地区にある伝統ある学校です。PTAの組織は、8つの委員会と一人一役があり、年間を通して様々な活動が盛んに行われています。今回は一人一役の中「鍛錬遠足」について紹介します。

隈府小学校では、毎年、伝統行事として1日かけて全学年で鍛錬遠足が行われています。高学年では地元の山に登る機会を持つと、6年生は八方ヶ岳標足」について紹介します。



鍛錬遠足 八方ヶ岳山頂にて

高1052m)往復33km、5年生は鞍岳(標高1118m)往復23.6km、を歩きます。保護者もPTAの一人一役の方を中心に、登山中の見守りや途中の交通指導などの役割を持って参加しています。保護者の中には、母校である方もいて、「地元の山ですが、小学生以来登ります」自分が子どもの頃休んで登れなかったので子どもといっしょにぜひ登りたかったので参加しました」などと言われていました。

当日、6年生は午前5時50分、5年生は6時40分に学校を出発。晴天にも恵まれ、順調にスタートしたものの、途中、足が痛くなったり、疲れがたまったりして、もう限界と思うこともありましたが、しかし、子どもたちといっしょに声をかけあい、励まし合いながら登りることができました。

頂上では、子どもたちから「景色がとてもきれいなあ」という歓声があがっていました。その声を聞くと、頑張ってきた甲斐があったと感じました。

その後、下山。6年生は17時30分頃、5年生は、16時30分頃に無事に全員到着しました。心地よい疲れの中、「ふくらはぎがパンパン。でも子どもたちといっしょに出になった」という方。「あと2回登ろう」3人子どもがいる方は、自分に言い聞かせていました。

今日も八方ヶ岳、鞍岳は、隈府地区を見守りながら、「来年もおいで」と言っているようです。

PTA会長 高本 岳志
校長 古澤 広義

郷土を愛し、誇れる 生徒の育成を

上天草市立姫戸中学校

県南 天草エリア

教職員数 14人

生徒数 47人



単P紹介

姫戸中学校では豊かな自然に恵まれた地域の特性を生かし、郷土愛の醸成に向けて学校・地域・保護者で取り組んでいます。

今回は郷土愛醸成に向けた本校PTAの取組を紹介します。

「海の活動・山の活動」

一昨年度から6月に諏訪海水浴場で「海の活動」を実施しています。海岸の清掃活動や天草青年の家から指導員派遣によるライフジャケット講習等を行って



海の活動のようす



1月の山の活動にて

ます。「夏の日標宣言」で全校生徒・職員が今年の夏の日標を大きな声で宣言します。

1月には、姫戸町内にある白嶽(標高約370m)に全校生徒・職員が登る「山の活動」を実施しています。山頂到着後、一人一人が「年頭の所感」を大きな声で発表します。PTAではそれぞれの活動において運営協力と昼食づくりを行っており、食材には地域特産物の肉等を保護者から提供いただいています。また、PTA新聞にも掲載し全保護者に配布しています。

育祭に向け、グラウンド及び校地内の除草活動に生徒・職員、保護者で取り組んでいます。PTAでは除草作業及び搬出用の軽トラック車両協力を行っています。参加される方々からも感謝の言葉をいただき、地域の一大イベントとして毎年大変盛り上がりつつあります。この他にも、小中合同での体育大会準備協力や地域夏祭りの街頭パトロール等にもPTAとして協力し、親子のふれ合い、小中学生の交流の場となっています。

学校、保護者、地域が連携した取組を行うことで生徒の郷土を愛する意識の高揚につながっています。私たちPTAは、学校・地域での体験的な学びを通して、生徒が郷土を愛し、誇りをもてるよう今後もPTA活動の活性化に努めてまいります。

PTA会長 山口 卓
校長 中島 恒士
原稿執筆者 伊形 征也

「地域の行事への協力」

毎年10月に本校で実施される町民体



県社会教育課 田原里恵主幹の講演のようす

9月1日、熊本県総合福祉センターで、家庭部会研修会が行われま

平成30年度 家庭部会研修会に参加して

「PTA活動を通じて、人との出会

「PTA活動を通じて、人との出会



家庭教育委員 稲本 眞理

「いろいろな環境の子がいるがみな

「いろいろな環境の子がいるがみな



ご存じですか!

くまもと家庭教育支援条例

家庭は教育の原点です。熊本県では、平成25年4月に全国で初めて「くまもと家庭教育支援条例」を制定し、県民みんなで家庭教育の支援に取り組んでいます。

保護者の役割 (第6条)

休日は、子どもと一緒に遊んでいますか。親子の会話は足りていますか。子どもの行事に参加していますか。

地域の役割 (第8条)

地域の伝統行事に地域の子どもは参加していますか。地域の歴史や伝統を子ども達は知っていますか。

学校の役割 (第7条)

家庭・地域と連携して子どもの生活習慣、自立心、心身の調和のとれた発達を育てていますか。「親の学び」講座を実施していますか。

事業者の役割 (第9条)

従業員のワークライフバランスに努めていますか。家庭教育を支援する取り組みをしていますか。(研修会、子育て講座等)

それぞれの取り組みにより、各家庭が改めて家庭教育に対する責任を自覚し、その役割を認識していただくとともに、県民みんなで家庭教育を支えていく社会へと進めていきます。

熊本県教育庁教育総務局社会教育課家庭教育支援班 TEL096-333-2698

熊本県PTA連合会 小・中学生総合保障制度(こども総合保険)のご案内

任意加入保険

小・中学生総合保障制度(こども総合保険)

お子さまを取り巻く様々な事故のリスクに対応します。学校内外でのケガを補償します。

学校内外でのケガを補償します。



他人にケガを負わせたり他人のものを壊したりした場合に補償します。



上記の他にも、病気補償・学校管理下動産補償・育英費用補償・被害事故補償など様々な補償※でお子さまをお守りします。

●団体割引制度により保険料は約27%割引

当制度は、PTA団体加入制度のため、約27%保険料が割引かれています。

1年間の掛金1,950円。(プラン・補償開始日により、掛金は異なります。)

加入件数/4,269件(2018年度)

※割引率について:このパンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。

お申込み・お問い合わせ

熊本県PTA連合会 小・中学生総合保障制度事務局

TEL:0120-228-553

受付時間:平日/午前9時~午後5時

〒810-0001 福岡市中央区天神1-13-2 興銀ビル9F 株式会社コーリン内

https://www.pta-corin.com/

制度引受保険会社: AIG損害保険㈱、東京海上日動火災保険㈱、損害保険ジャパン日本興亜㈱、三井住友海上火災保険㈱

ご加入の際には、パンフレットおよび重要事項説明書を必ずお読み頂いた上でお申し込みください。

S-109309(2020-03)

(財)熊本県PTA教育振興財団のお知らせ

学校管理下の事故にも対応しています。

児童生徒の皆さんが学校管理下(登下校中を含む)で被災した場合であっても、死亡あるいは後遺障害、歯科保険外治療、交通事故等について、本共済からの共済金給付があります。

共済期間は...

学校などの年度に対応する1年間(4月1日から翌年3月31日まで)になります。

春休み期間のご注意

春休みの4月1日以降に、本年度の学級や学年での活動が実施された場合、共済の対象とはなりません。

小学校部活動の社会体育への移行に関して

熊本県PTA共済には現在、社会体育として小中学生を指導している非営利のスポーツ団体が、特別団体として加入できる制度があります。

今後の対応について検討中ですので、年度末までには、現在御加入の団体にご連絡いたします。

社会体育に移行した団体におかれましては、スポーツ安全保険へのご加入をご検討ください。

熊本県PTA共済に関するご質問やご連絡は...

共済の対象となる活動の範囲、事故発生時の手続き、様々な手続きに必要な書類など、お気軽にお問い合わせください。

事務局 TEL: 096-278-8811

フリーダイヤル: 0800-200-5553

(財)熊本県PTA教育振興財団

〒860-0842 熊本市中央区南千反畑町3-7 熊本県総合福祉センター4F

TEL:096-278-8811

平成30年度 委員会報告

総務委員会

親も楽しむ笑顔になれるPTA活動

総務委員会では、熊本県PTA連合会の予算や事業計画の執行、規約改正や表彰に関するを中心として会議を重ねてまいりました。

しましては、広報紙の発行回数や、家庭部会の在り方などについて委員会内で検討を重ね、理事会で継続協議していただいております。

また、昨年11月に開催しました熊本県PTA研究会大会球磨大会では、第1分科会・第2部の「食育」を担当し、多くの会員の皆様にご参加いただきましたことに感謝申し上げます。

今後とも県P連に対し、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



委員長 岡崎 秋人

教養委員会

参加者同士の交流の場となる研修会を開催

教養委員会では主に研究会、研修会の企画、運営を行いました。

PTA研究会大会球磨大会においては、第1分科会第一部の特別支援教育を担当しました。「療育教育」について、講師の先生が話された「発達障害や特別支援

教育など、正しい知識(情報)を得る」「子どものことを知る」「子どもが話せる(相談相手を持つ)」大切さについて理解を深めることができました。

また、単位PTAリーダー等研修会を3月2日(土)にやつしるハイモニーホールにおいて開催し

最後に、各事業の運営に関わってくださった方々、参加者のみなさま、各会員のみなさま、ご協力いただきありがとうございました。



委員長 西田 恵介

家庭教育委員会

親の責任をわかりやすく伝える講座を開催

家庭教育委員会は、本年度も昨年同様、家庭・学校・地域との交流活動の推進を目的とした活動を行って参りました。

6月28日に「ふれあい読書研究会」「親子ふれあいデー活動」の委嘱事業をスタートし、12月6日に中間報告会を終了しました。委嘱後は各学校それぞれに工夫を凝らした事業が行われ、

中間報告会において子どもはもちろん、地域・保護者も楽しめる事業についての情報交換をしていただきました。

思ったような事業が行えず、情報交換の場でヒントをもらい、来年度につなげていきたい、といった学校もありましたが、みなさんの献身的な気持ちは必ず子どもたちにも届くことと思っております。



委員長 眞田 洋子

広報委員会

想いを広く報せたい広報活動を目指そう

広報委員会は、昨年同様、年2回の熊本県PTA新聞発行に向けて活動して参りました。単位PTAで取り組まれている事業活動の紹介や、県P、九P、日Pなどの研究大会、研修会の報告など、紙面の許す限り、会員の皆さまに広く、できるだけ読みやすく編集、作成しようと、委員一同取り組んできました。

また、県P球磨大会では、第3分科会の企画運営を担当し、情報モラルについて参加者の皆さまと共に学びました。急激に進歩する情報端末機器や多種多様なSNSアプリケーション。活字ではどうしても心まで伝わりにくいというデメリットがあるのは、この広報紙もSNS、インターネットの世界も同じです。

11月10日の球磨大会においては、「子どもたちのいのち」にありがとう」をテーマに球磨郡PTAの役員の方々との会議を重ね、一年以上をかけて分科会の企画運営に取り組みました。

高濱先生のご講演に参加者の皆さんも涙を流し、「もう一度命の大切さを子どもと考えてみたいです。」など、心を動かされたというご感想がありました。



委員長 岩根 要

震災義援文庫設置について



八代郡氷川町及び八代市中学校組合立 氷川中学校 司書 松岡 倫子

熊本県PTA連合会からの震災義援文庫設置事業の案内により、防災関連図書を購入をさせていただき、感謝申し上げます。

政府は、2017年度から5年間、第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」とその実現にむけて学校図書館図書標準の達成を目指すとともに計画的な図書の更新、小・中学校に学校司書の確保等を組み入れています。

「主体的、対話的で深い学び」となる授業を目指す新学習指導要領の改正に伴い、学ぶだけでなく、学んだことを応用する力をつけるために新聞や図書を使った図書授業の更なる充実が必要になっていきます。

この文庫ができたことでさらに、学んだこと感じたことを心に刻んでくれることと思います。



防災関連図書のコーナー

使った図書授業の更なる充実が必要になっていきます。

この文庫ができたことでさらに、学んだこと感じたことを心に刻んでくれることと思います。

編集後記

第45回熊本県PTA研究会大会球磨大会におきましては、沢山の会員の皆さまにご参加いただきありがとうございました。今号は、県P研究会を中心に日P・九P大会参加者報告、高P連との意見交換会報告、親子ふれあいデー活動報告、ふれあい読書研究会報告、単P紹介等掲載しております。

全ての掲載記事は、会員皆さまのPTA活動に際し、参考になるものと思っております。

今後、取り上げて欲しいと思われる記事がありましたら県P事務局までご連絡ください。一年間、ありがとうございました。